

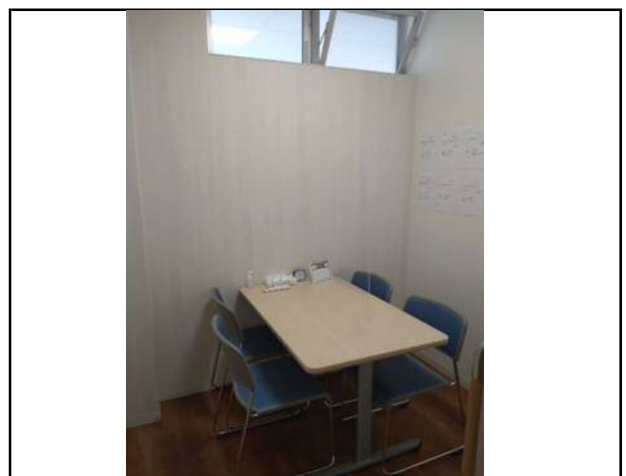
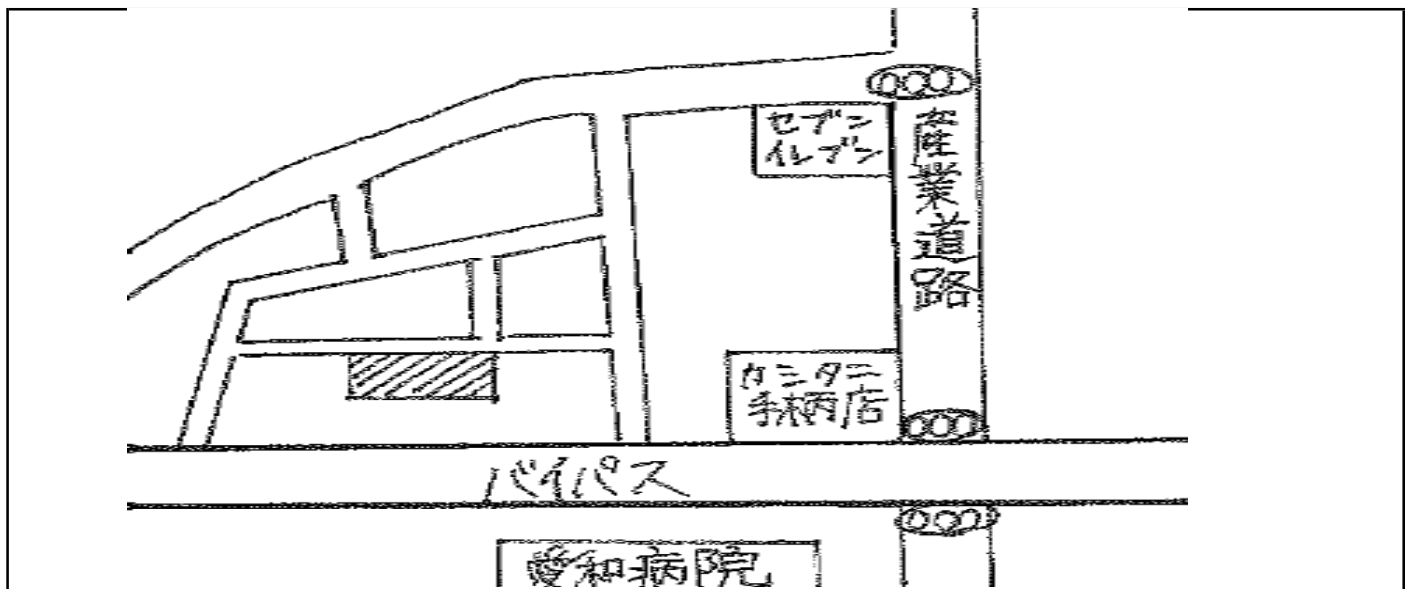
## 地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

### 【地域包括支援センター概要】

|           |   |
|-----------|---|
| センター名称    | 姫路市山陽地域包括支援センター   |
| 法人名       | アースサポート株式会社   |
| 所在地       | 〒670-0974<br>姫路市飯田777   |
| 電話        | 079-283-1511  |
| FAX       | 079-283-1510  |
| ホームページURL | <a href="https://www.earthsupport.co.jp/offices/sanyochiikihoukatushien">https://www.earthsupport.co.jp/offices/sanyochiikihoukatushien</a> |

### 【センターの案内】

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| センターまでの交通手段 | 山陽電鉄本線 『亀山駅』 より徒歩8分 |
|-------------|---------------------|



### 【センターが所在する地域の特徴・特性】

姫路市全体の高齢化率約27%に対し、山陽校区全体では概ね20.9%と全市より下回っている。これは城陽、荒川地域での区画整理事業や、手柄、城陽地区でのマンション建設、地域全体での農地から宅地への転用の影響で、校区内人口は150人程度増加しているが、高齢者数はほぼ横ばいになっている。

山陽校区内は、鉄道バスのアクセスが比較的良好、また近隣に医療機関も多いことから、医療、介護サービスが受けられないという方は、個々の事情でのものを除けば、ほとんどない。

但し、町によっては面積が広く、線路や幹線道路などにより、生活圈域が分離され、地域の行事に参加が難しい高齢者もいる。

また、鉄鋼業などで地方から姫路に転居してきた人が、独居のまま高齢化し、地域住民や親族の繋がりが薄く、疾病等で、支援が必要になった際、周囲の支援が受けられない人も多い。

総合相談の中でも認知症の相談比重が高く、独居の認知症の方の相談でも、人との繋がりが少ないケースも多く見受けられる。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

認知症になっても住みやすい地域は、誰にとっても住みやすい地域と考え、啓発活動に力を入れている。

病院、警察などの関係機関だけでなく、スーパーやコンビニ、金融機関等の訪問も実施している。

また、山陽中学校での認知症サポーター養成講座を3年間継続、昨年度末でほぼ全生徒が認知症サポーターになった。

またいきいき百歳体操の継続支援も実施しており、令和4年度に新たに1か所立ち上がった。

法人としては、WEBを活用し、法人内の他地域の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所とも合同で勉強会を実施し、スキルアップを図っている。

チームアプローチでの支援を大切にしており、毎朝の朝礼ミーティングや月1回もミーティングなども継続し、また地域行事には各職種とも参加している。

### 【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

・基本目標1 日常生活圏域内に「通いの場」(いきいき百歳体操、認知症サロン)が設置され、希望する人が誰でも参加できる。

・基本目標2 誰でも気軽に総合相談が出来る様に相談先が地域包括支援センターであることを周知継続し、地域住民の多くが相談先として認識できている状態になる。

・基本目標3 「生活支援体制検討会議」が3校区で定期的開催できる。

・基本目標4 認知症になっても住み慣れた地域で生活できる為に、地域住民の見守りや支え合い会議が継続的に行える。

## 地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

|        |                  |
|--------|------------------|
| センター名称 | 姫路市山陽地域包括支援センター  |
| 評価調査者名 | 寺岡 芳孝、吉田 真、横山 尚子 |

### 【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

年4回発行する「山陽包括便り」には、身近に感じられる情報や地域包括支援センターの活動を盛り込み、通いの場や地域自治会及び医療・警察・金融機関、商業施設などにも訪問し、啓発活動に努められている。総合相談活動(面談・電話・訪問)や地域の関係機関などに積極的に向き、介護予防や認知症予防などの啓発活動に、地域包括支援センター職員が協力し、チームアプローチで取り組まれている。また、地域リハビリテーション活動・障害者福祉と介護の連携・自立支援ケア検討会議・認知症サポーター活動促進など、地域包括支援センターの運営・機能強化と併せて、地域共生社会の実現に向け取り組まれている。令和4年度で4回目となる山陽中学校での「認知症サポーター養成講座」が継続的に取り組まれている。

### 【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

社会福祉施設との連携なども含め、「認知症サロン」など未開催校区への立ち上げ支援の継続に期待したい。また、新型コロナウイルス感染症流行以前に行っていた『いき百世話人交流会など』の再開や公民館と連携して「健康講座」・「介護者の集い」の更なる周知に期待したい。準基幹地域包括支援センターとの連携を強化して、「生活支援体制検討会議」が3校区で定期的に行えるようにするとともに、各校区の実情に合った「認知症ケアパス」の構築に期待したい。

### 【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

今後、窓口としての地域包括支援センターの啓発活動を継続し、地域包括ケアシステムの構築を目指します。その為にも、認知症サロン、いきいき百歳体操の立ち上げ・継続支援をはじめ新型コロナウイルス感染症流行以前に行っていた交流会などが充実出来るように取組を検討していきたい。地域の様々な機関との繋がりや準基幹地域包括支援センターとの連携強化を図り3校区での定期的な生活支援体制検討会議を開催し各校区の実情にあった支援をチーム全体で取り組みます。

### 【備考・その他】

姫路市山陽地域包括支援センターへ誘導する目印・看板等が事業所近くに1~2か所あれば事業所の場所が分かりやすかったと思われる。コロナ禍の影響で地域との交流や支援活動に制約がある中で、地域包括支援センター職員がチームワークよく積極的な取り組みが行われている。今後もウイズコロナを見据えた支援活動に期待したい。

|          |  |  |  |
|----------|--|--|--|
| 評価項目・着眼点 |  | 基本目標1: 生きがいを感じながら暮らすための支援の充実   |  |
|          |  | (基本的な考え方)<br>人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。 |  |
|          |  | 介護予防に関する認識の变革  |  |
|          |  | ①  | 85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。<br>市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。  |
| センター記入欄  |  | ②  | 高齢者が通える場があるまちづくり<br>介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。  |
|          |  | ①  | 3か月に1回程度「通いの場」に訪問し、継続支援を行う。また、必要に応じて相談支援や受診勧奨、市の相談窓口の案内等を行う。<br>年1回フレイルチェックリストを実施する。またフレイル予防DVDを上映する。<br>②山陽包括便りで、通いの場やフレイル予防の周知啓発を行う。また、総合相談やケアマネジャーからの相談、担当者会議への参加時など、機会があるごとに通いの場の案内をする。  |
| 評価調査者記入欄 |  | 現在課題と<br>感じていること   | ① 各町の面積が広かったり、踏切幹線道路があったりの理由で、徒歩圏内に「通いの場」がないところも多い。<br>② 通いの場に参加せず、閉じこもり傾向のある高齢者の把握ができていない。  |
|          |  | 目標達成の<br>ための今後の<br>取り組み  | ① 引き続き「通いの場」の継続支援を行うと共に、未開催地域の立ち上げ支援を行う。<br>リハビリ専門職の派遣を活用し、いきいき百歳体操の指導助言を行い、より熱心に取り組めるよう支援する。<br>②民生委員との連携を深め、通いの場に参加していない高齢者宅に同行訪問し、声掛けを行う。   |
|          |  | 評価で確認<br>した特徴的<br>な取り組み<br>や工夫点  | ・地域の「通いの場」への交通の不便さなどを常に把握し、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めながら支援が行われている。<br>・年1回の「フレイルチェックリスト」の実施や「フレイル予防の講座」の開催実施をし、地域において、医療や介護予防のみならず、様々な生活支援サービスが適切に提供できる機会に取り組まれている。<br>・姫路市から派遣されるリハビリ指導(理学療法士など)を積極的に依頼し、「いきいき百歳体操など」で、日常生活動作の質を向上されるように努められている。 |
|          |  | 次のステップに向けた<br>気づきや期待<br>したい点   | ・城陽地区の「認知症サロン」が開設されていない現状を踏まえ、開設に向けて取り組んでおり、今後も立ち上げ支援の継続に期待したい。<br>・コロナ禍以前に行っていた『いき百世話人交流会』などの再開に期待したい。  |



|          |                               |   |  |
|----------|-------------------------------|---|--|
| 評価項目・着眼点 |                               | 基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築   |  |
|          |                               | (基本的な考え方)<br>日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。  |  |
|          |                               | ①   | 地域包括支援センターの運営                                      |
|          |                               |   | 地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。 |
|          |                               |   | 地域包括支援センターの機能強化                                    |
| ②        | 地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。 |   |  |
|          | ③                             | 世代や分野を超えた地域のつながりの構築   |  |
|          |                               | 地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。   |  |
| センター記入欄  | 取り組みの状況                       | ① 基本職員認知症担当職員が交代で年4回山陽包括便りを発行し、地域包括センターの活動内容を地域に啓発する。その際警察や病院などの他職種にも配布し地域包括支援センターの役割を周知する。健康講座を実施する。<br>② できる限り総合相談の初回訪問は2人体制で実施、また毎日の朝礼ミーティング、月1回の包括ミーティングで多角的に相談支援を行えるようにする。<br>③ 地域支え合い会議の周知および実施を積極的に行う。また生活支援体制会議の手柄校区での継続、荒川城陽校区での実施に向けて話し合いを行う。 |  |
|          | 現在課題と感じていること                  | ① 山陽包括便りが地域での「回覧」が中心となる為、なかなか個人単位での周知に繋がらない。また健康講座や介護者の集いの参加人数が少ない。<br>② 総合相談に加え、予防給付の外注委託プランや各職種の業務も多いため負担は大きいと感じている。<br>③ 元々、地域の繋がりが深い町も多く、生活支援体制会議など、新しい取り組みに対して、地域住民が負担に感じることもある。   |  |
|          | 目標達成のための今後の取り組み               | ① 健康講座や介護者の集いの周知を公民館とも連携して、早期から周知すると共に、日々の総合相談の中でも参加の声掛けを行う。<br>② 主任介護支援連絡会で外注委託プランの負担軽減方法を話し合う。定期的な社内研修を通して、相談技術の向上を目指す。<br>③ 地域支え合い会議の普及啓発を継続し、民生委員や町会の役員との連携を深め、生活支援体制会議の定期開催を3校区で行えることを目指していく。  |  |
| 評価調査者記入欄 | 評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点           | ・年4回発行している「山陽包括便り」は、地域での回覧という形式をとっているが、山陽地域包括支援センターの活動内容や役割を周知するために、警察・病院、関係機関などにも配布され、啓発活動に取り組まれている。<br>・家庭内の高齢者関連課題は山陽地域包括支援センターで対応を行っているが、障害者や子供の対応など専門的知識が必要なケースにおいては「姫路市地域相談窓口(ひめりんく)」や相談支援事業所などの専門機関との連携が図られている。                                  |  |
|          | 次のステップに向けた気づきや期待したい点          | ・公民館と連携して「健康講座」や「介護者の集い」の更なる周知に期待したい。   |  |

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 評価項目・着眼点 | 基本目標3: 地域で暮らし続けるための支援の充実                            |  |
|          | 虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。 |  |
|          | 多様なサービスの活用  | ① 地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用して、虚弱・軽度要介護高齢者の重度化予防・自立支援を図る。そのために、地域包括支援センターが担う取り組みや事業としては、地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などがあげられる。  |
| センター記入欄  | 取り組みの状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支え合い会議の啓発、およびケースごとの実施に積極的に取り組む。</li> <li>・いきいき百歳体操へのリハビリ専門職派遣を利用し、年2回体操の指導や心身機能の評価、助言を行う。</li> <li>・総合相談の内容によっては、認知症初期集中支援事業に積極的に繋げていく。またSOSネットワークなどの認知症の方への支援について、啓発や助言を継続する。</li> </ul>  |
|          | 現在課題と感じていること  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースの内容によっては、地域との繋がりに対して拒否的な方も多く、まだ個別会議の開催数が少ない。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響もあり、通いの場の開催自体が中断することも多い。</li> <li>・独居で認知症のある方など、地域との繋がりが希薄な方も多く、地域との繋がりがづくりや施策に繋いでいくことの難しさを感じることも多い。</li> </ul>  |
|          | 目標達成のための今後の取り組み                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼ミーティングの時などに、地域支え合い会議開催の必要性を各職種とも改めて認識し積極的な開催に繋げていく。</li> <li>・通いの場への開催支援を継続し、また啓発活動も積極的に行う。</li> <li>・民生委員などとの連携を大切に、少しでも高齢者が地域と繋がることを相談しながら、必要な資源に繋いでいく。</li> </ul>   |
| 評価調査者記入欄 | 評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職(主任ケアマネージャー、行政、リハビリ専門職)が定期的に自立支援ケア検討会議に出席し、早期対応の検討・実行できるよう取り組まれている。</li> <li>・「地域支えあい会議」は令和3年度は8回実施されており、手柄・城陽・荒川各地区に偏ることなくバランス良く開催されている。</li> <li>・民生委員からの連絡や総合相談から「認知症初期集中支援事業」に繋がった事例、SOSネットワークへの登録支援・「通いの場」の開催支援や啓発活動など各職種がチームとなり積極的に取り組まれている。</li> </ul> |
|          | 次のステップに向けた気づきや期待したい点                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域支え合い会議」の普及啓発を継続し、民生委員や自治会の役員との連携や準基幹包括支援センターとのネットワークを深め、「生活支援体制検討会議」の定期開催を3校区で行えることを期待したい。</li> </ul>   |

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 評価項目・着眼点 | <b>基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現</b>   |   |
|          | 認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防(認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする)に関する取り組みを推進します。 |   |
|          | ①  | 認知症にやさしい地域づくり<br>認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。  |
|          | ②  | 認知症になるのを遅らせるための取り組み<br>高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。  |
| センター記入欄  | ③  | 認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み<br>認知症の種類や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護に提供が出来るようになる。  |
|          | 取り組みの状況  | ① 中学校での認知症サポーター養成講座を今年度も実施すると共に、事業所回り(年に100か所をめざす)での啓発活動、養成講座実施の声掛けを行う。認知症の相談に各職種がチームを組み取り組む。介護者の集いを開催する。<br>② 認知症サロンの継続支援、フレイルチェック、DASCシートの実施、サロンでの講座などを行う。<br>③ 認知症初期集中支援事業や地域支え合い会議を通して、必要な支援に繋ぐ。成年後見制度の啓発活動を継続する。               |
|          | 現在課題と感じていること   | ① 新型コロナウイルス感染症が出てきて以降、養成講座の開催が減少している。介護者の集いの周知が難しく、参加人数が増えていない。<br>② 認知症当事者への通いの場への参加が増えていない。<br>③ 独居の場合や家族に問題があるケース、経済問題などで支援に繋がりにくいケースがある。  |
|          | 目標達成のための今後の取り組み  | ① 健康講座と介護者の集いを連続させて、両方に参加しやすくするように工夫する。引き続き事業所回りを続け、養成講座開催機会を増やす。<br>② 総合相談のケースでの本人家族への働きかけ、民生委員への周知や連携協力体制の構築などを継続して行う。<br>③ 早期受診の勧奨および、総合相談時の認知症初期集中支援事業への促しを継続する。健康講座等で成年後見制度はじめ権利擁護事業の普及啓発を行っていく。                               |
| 評価調査者記入欄 | 評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点  | ・シルバーヘルパー研修会や中学校での認知症サポーター養成講座など、地域の支援者の増加や「認知症高齢者の地域での理解と受け入れ」に取り組まれている。<br>・また、管轄保健所と協力し、認知症サロン・いきいき百歳体操・医療機関の場所などの情報マップを作成されるなど積極的に取り組まれている。<br>・年1回100か所の事業所(銀行・郵便局・コンビニエンスストア等)を回り『包括便り』や『認知症の方を支える取り組み』を配布し理解を求めている。          |
|          | 次のステップに向けた気づきや期待したい点   | ・今後は「認知症ケアパス」が山陽地域包括支援センターではどのような場所で行えるのか、地区ごとに当事者にわかりやすい資料づくりが期待される。<br>・今後は地域の社会福祉施設の活動を把握しながら、認知症サロンの開設など社会資源として活用されることが期待される。<br>・「認知症サポーター」の養成に力を入れられているが、今後は中学校の生徒だけでなく、民生児童委員や地域の社会福祉法人、関係事業者の担当者など地域として支援の輪が広まっていくことに期待したい。 |